

スロバキアの総選挙（540号）

2023年 10月 石館

ウクライナの隣国である中欧スロバキアで9月30日国民議会（一院制、定数150）選挙が実施された。ウクライナへの軍事支援の停止を訴えるスメル（道標）が第一党に躍進した。支援継続の姿勢を示す親欧州連合のプログレッシブ・スロ



バキア（PS）は第2党になった。

いずれの政党の獲得議席も過半数に届かず、今後は連立政権の樹立に向けた協議が焦点となる。

スロバキアは面積約5万平方キロ（日本の約7分の一）、人口は約550万人（21年）である。GDPは一人当たり約3.5万ドル。

スロバキアは面積約5万平方キロ（日本の約

スロバキアの歴史を簡単に述べる。1918年第一次世界大戦後オーストリア・ハンガリー帝国崩壊後、チェコスロバキア共和国建国。1939年ナチス・ドイツの影響の下、スロバキア国独立。1945年第二次世界大戦後、チェコスロバキア独立回復。1948年共産主義体制の確立。

1968年“プラハの春”事件。小生が偶々プラハを訪れていたが、国境閉鎖で出国できなくなる。1989年ベルリンの壁崩壊とビロード革命を達成の後、1993年1月にチェコとの連邦を解消し、スロバキアが国として独立。2004年3月にNATO加盟。同年5月にEU加盟を果たした。

1993年独立以来、猫の目のように政権が変わってきたが、それでも今回第1党に復帰したスメルは多くの期間政権を担ってきた。

歴史的に反口で知られるバルト3国やポーランド等周辺東欧諸国と異なり国民の間の対口関係は良好で親口的とされている。それはスロバキアのナチスドイツ支配からの解放をもたらしたのはソ連赤軍であったという側面がある。



首都ブラチスラバ

小生家族と車でチェコのプラハからハンガリーブダペストに行く途中ブラチスラバに立ち寄ったことがある。後方に見えるのがブラチスラバ城。中世にタイムスリップした感じであった。



【速報】スロバキア総選挙 ロシア寄り左派が第1党にウクライナ...

右側は今回の議会選挙で第1党になったスメル Fitzo 党首。過去にも首相になったことがある。

Fitzo 党首は記者会見をし“ウクライナへの対応より大きな課題がある”と述べると共に、軍事支援を停止する立場に変わ

わりはないと強調した。スロバキアは NATO と EU 加盟国。現政権はロシアの侵攻を受けるウクライナに戦闘機の供与を含む軍事支援を続け、ウクライナの NATO 加盟交渉にも前向きな姿勢を見せていた。

Fitzo 元首相が率いるスメルはこうした路線を批判し、ウクライナ侵攻を受けて対ロシア制裁も“効果が乏しい”として見直しを主張。資源国であるロシアとの関係を重視する方針を打ち出し、燃料価格の高騰などの生活苦に不満を持つ有権者の受け皿となった。

Fitzo 氏は首相時代強権的な姿勢で知られる。2018年首相時代に

政界の汚職を追及していた記者が殺害される事件が発生し、抗議運動が強まる中で首相の辞任に追い込まれた経緯もある。同氏が首相として復権すれば、EU や NATO にとっては対ロシア政策の結束を乱す不安要因になる可能性がある。今回の議会選挙では、ロシアは裏でスメルを応援していた可能性が高い。

かつてはチェコスロバキアとして1993年まで同じ国であった、隣国チェコ共和国はスロバキアと違った動きをしている。ゼマン大統領の任期満了に伴う大統領選の決選投票が1月に行われ、ウクライナへの支援強化を訴える元 NATO の高官バヴェルが、前首相で野党第一党 ANO 党首のバビシユを破り次期大統領に選ばれた。

同氏の方針は EU,NATO 加盟国としてチェコの積極的関与、特に対ロシア制裁の強化、武器の供与を含むウクライナ支援、同国の EU 加盟支援を進めるといった点で現政権と一致。政府と大統領の協力関係が緊密化することが期待される。



美しいスロバキアの地方都市

議会選挙の得票率はスメルが23%、PSが18%で続く。ベレグリニ元首相の中道左派“声”は15%で第3党として連立協議を左右する見通しとなった。

第1党のスメルは大統領の要請を受けて組閣準備を始める見通しだが、連立協議の行方によっては必ずしもロシア寄りの政権が成立するわけではない。

しかし一枚岩であった NATO の結束が崩れる可能性もあり、スロバキアの選挙結果はロシアが影響力を行使したであろうが彼らにとって朗報であることは間違いない。EU の中にはウクライナ支援疲れも見られ、どのタイミングでどのような和平交渉をするか、残された時間はあまり多くはない。